

平成元年度
業務報告書

平成2年6月

国際協力事業団
神奈川国際水産研修センター



JICA LIBRARY



1082224151

21120

國際協力事業団

21120

はじめに

神奈川国際水産研修センターは設立当初より、水産大学、国及び県の水産試験研究機関、民間企業、地元の漁業協同組合等関係機関の協力をえて、当センターにおいて研修員に対し直接研修を行う体制をとり、技術指導施設と宿泊機能を兼ね備えた、日本で唯一の国際水産研修センターである。

平成元年度は集団研修 5 コース 56 名、個別研修員 19 名（プロトコール訪問、集団への合流を除く）計 75 名を受入れ、三崎国際水産研修会館（昭和 36 年 4 月開設）時代からの修了者の累計は 95 ケ国 1,023 名に達した。

平成元年度の業務実績を振り返ってみると、次の事項が特筆すべきものとして掲げられる。

- (1) 沿岸漁具漁法Ⅱ(理論)コースを従来の 5.5 ヶ月を 2.5 ヶ月に短縮し、特定トピックの理論を中心とするカリキュラムとした。
- (2) 日本語研修に実施要領を導入し、日本語習得の目標管理を目指すこととした。
- (3) 多様化する水産分野研修ニーズとその対応を整理するために、当センターが世話役となり初めての水産分野研修連絡会議を開催した。
- (4) 個別研修員の一層の受入れを図った。その一つとして平成元年度初めて、中国支部所管の集団コース「エビ増養殖」の導入研修を当センターで約 10 日間実施した。
- (5) 昭和 63 年度より本部研修事業部で検討してきた「神奈川国際水産研修センター現状と問題点－JICA水産センターにかかる方向性を探る－」が最終版としてとりまとめられた。

研修員受入れ事業の大巾な拡大が求められている中であって、永年培ってきた研修ノウハウを有する直営センターの役割が今見直される機運にあり、当センターの将来発展を期してなお一層の業務努力を行う所存である。

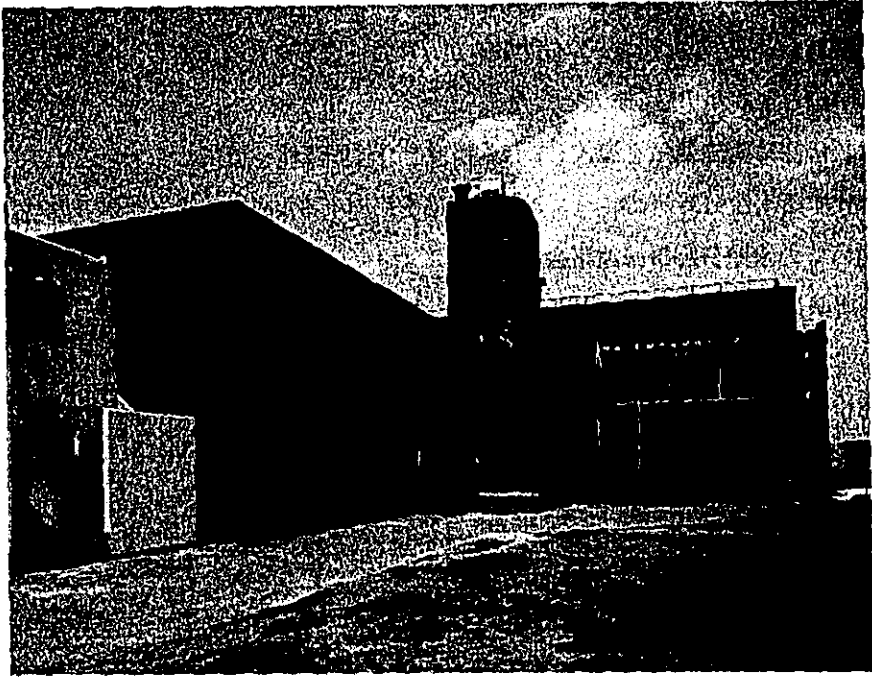
最後に当センターの研修に多大のご支援、ご協力を賜わった関係者の方々に心から謝意を表する次第である。

平成 2 年 6 月

国際協力事業団

神奈川国際水産研修センター

所長 佐伯靖彦



神奈川国際水産研修センター全景

平成元年度 業務報告書

目次

はじめに	
写 真	
Ⅰ. 神奈川国際水産研修センターの概要	1
1. 沿 革	1
2. 施設概要	1
3. 組織と分掌	1
Ⅱ. 平成元年度業務実績	3
1. 集団研修コース実績一覧	3
2. 集団研修コース	5
3. 個別研修コース	20
4. オリエンテーション	22
5. 日本語研修	23
6. 研修員の福利・厚生	26
(1) 厚生活動、国際交流等	26
(2) 健康管理	27
7. 関連業務	28
(1) 帰国研修員のフォローアップ等	28
(2) 第三国研修支援	30
(3) 青年海外協力隊員派遣前技術補完研修	33
(4) 水産分野研修連絡会議	34
(5) 便宜供与・広報	35
(6) 視聴覚教材開発	36
8. 施設の管理・運営等	37
(1) 宿泊管理と実績	37
(2) 施設の管理・運営	37
(3) 施設の整備	37
資 料	
資料－1 平成元年度宿泊利用実績	38
資料－2 コース別年度別研修員受入実績	39
資料－3 国別年度別コース別研修員受入実績	40

I. 神奈川県国際水産研修センターの概要

1. 沿革

神奈川県国際水産研修センター（英文名-Kanagawa International Fisheries Training Centre：略称KIFTC）は、昭和36年4月三浦市諏訪町に当事業団の前身の一つであった（社）アジア協会設立の三崎国際水産研修会館として発足し、昭和49年4月に神奈川県国際水産研修センターと改称し現在地に移転・拡充された。

当センターは設立当初より、水産大学、水産試験場、地元の漁業協同組合等の協力を得て、当センターにおいて研修員に対し直接研修を行う体制をとり、水産の技術指導施設と宿泊機能を兼ね備えた、日本で唯一の国際水産研修センターである。

2. 施設概要

① 所在地：神奈川県横須賀市長井5-25-1 〒238-03

TEL.0468-57-2251 FAX.0468-57-2254

② 建物規模：

敷地面積：3,069 m² 建築面積：1,196 m²

延床面積：2,729 m² 構造：鉄筋コンクリート4階建

③ 主要施設：

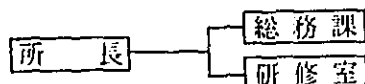
ア. 管理施設（事務室、会議室、講堂）

イ. 宿泊施設（シングルルーム33室、和室1室、食堂、ロビー、ラウンジ）

ウ. 研修施設（研修室3室、漁具製作室、養殖実験実習棟、エンジン実習室、
回流水槽室、実習船2、展示ホール、図書資料室）

3. 組織と分掌

① 組織：



② 事務分掌：

- 総務課 …… 研修員の宿泊管理、研修施設の運営管理、経理・庶務
研修員の福利厚生・生活指導
- 研修室 …… 研修計画・実施・評価等の業務、実習船・研修設備の管理
日本語研修、研修管理員に関する業務

Ⅱ. 平成元年度業務実績

1. 集団研修コース実績一覧

平成元年度においては、昭和 63 年度に受入れた沿岸漁具漁法Ⅱ(理論)、養殖一般、小型漁船の船体・機関保守の 3 コース計 32 名の研修を継続して実施するとともに、平成元年度は 5 コースの集団研修を実施しこれらコースで 56 名の研修員を受入れた。

また、各コースとも研修終了後、研修員による評価、指導講師陣及び当センター関係者の評価の結果をもとに、カリキュラム内容、研修員の資格、受入れ条件、開発途上国のニーズと我方の現状を勘案した研修コースのあり方等について関係者と検討し、その結果必要な変更、改善を行うなど研修コースの充実、向上をはかった。

なお、平成元年度において、沿岸漁具漁法Ⅱ(理論)コースを Intensive と改め、従来の受入れ期間 5.5 ヶ月間を 2.5 ヶ月間に短縮し、新しいカリキュラムでスタートさせた。

平成元年度 集団研修コース実績一覧表

No.	研修題目(研修コース名(英名))	定員	期日	受講者数	受講者名(英名)	受講期間	研修期間	開式・閉式	日本研修期間・英中研修(英中研修)
1	沿岸漁具漁法(理論) (Coastal Fishing Gear & Methods II - Theory)	8	9	11	11(含研修生1)	1. 1. 9 ~ 1. 6. 19	1. 1. 17 ~ 1. 6. 16	1/23・6/15	1/24 ~ 2/2(2/3 ~ 4/26)
2	養魚一般 (General Aquaculture)	8	12	18	13(含研修生1, 研修生1)	1. 1. 9 ~ 1. 6. 19	1. 1. 17 ~ 1. 6. 16	1/23・6/15	1/24 ~ 2/2(2/3 ~ 4/26)
3	小型漁船の船体・機関保守 (Hull & Engine Maintenance of Small Fishing Boat)	7	11	9	8(含研修生1)	1. 1. 9 ~ 1. 6. 19	1. 1. 17 ~ 1. 6. 16	1/23・6/15	1/24 ~ 2/2(2/3 ~ 4/26)
	平成元年度研修コース名(英名)								
4	沿岸漁具漁法(実践) (Coastal Fishing Gear & Methods I - Practice)	16	18	14	16	1. 7. 3 ~ 1. 12. 18	1. 7. 19 ~ 1. 12. 15	7/17・12/14	7/18 ~ 7/27(7/31 ~ 10/31)
5	漁業協同組合 (Fishery Cooperatives)	9	11	10	10(含研修生1)	1. 7. 3 ~ 1. 12. 18	1. 7. 19 ~ 1. 12. 15	7/17・12/14	7/18 ~ 7/27(7/31 ~ 10/31)
6	沿岸漁具漁法(実践) (Coastal Fishing Gear & Methods II - Intensive)	8	11	9	10	2. 1. 8 ~ 2. 3. 23	2. 1. 16 ~ 2. 3. 20	1/22・3/19	1/24 ~ 2/2(2/5 ~ 3/9)
7	養魚一般 (General Aquaculture)	10	13	10	11(含研修生1)	2. 1. 8 ~ 2. 6. 25	2. 1. 16 ~ 2. 6. 21	1/22・6/20	1/24 ~ 2/3(2/1 ~ 4/25)
B	小型漁船の船体・機関保守 (Hull & Engine Maintenance of Small Fishing Boat)	7	12	10	9(含研修生1)	2. 1. 8 ~ 2. 6. 25	2. 1. 16 ~ 2. 6. 21	1/22・6/20	1/24 ~ 2/3(2/1 ~ 4/25)

2. 集団研修コース

① 平成元年度 沿岸漁具漁法I(実技)コース実施概要

本部担当：榎本 好孝 センター担当：千賀 和雄

(1) コース名

沿岸漁具漁法I(実技)

COASTAL FISHING GEAR AND METHODS I (PRACTICE)

(コースNo. 134, コードA0214)

(2) 研修期間

1989. 7. 3～1989. 12. 18 (7. 18.～7. 26 日本語集中講座)

(3) 研修目的

日本の沿岸漁業の代表的な漁具漁法に関する基礎技術を特に実技にウェイトを置いて習得することを目的とする。開発途上国で漁具漁法分野の教育、指導、普及業務に従事する者を対象とする。

(4) 到達目標

日本の沿岸漁業を実技を通して出来るだけ体験させ、自国への導入の可能性を模策させると同時に指導、普及業務の遂行に役立たせる。

(5) 参加資格条件

- 1) 現在または将来、沿岸漁業の教育、指導、普及業務に従事する者。
- 2) 高校卒業または同等の学力を有する者で当該分野における3年以上の実務経験を有する者。
- 3) 40才以下であること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

日本の水産業の概要

開発途上国の漁業概要

漁具材料

漁具製作の基礎

漁具漁法

漁業機器

2) 研修方法 (英語率)

講 義	29.5 % (100 %)
漁具製作実習	18.9 % (100 %)
海上実習	20.0 % (100 %)
研修旅行、見学等	27.4 %
カントリーレポート発表会	4.2 % (100 %)

(7) 受入実績

今 年 度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
16	18	17	14	16	14
今年度までの実績					
設立年度		実施回数	受入人数	受入国数	
36年度		29	550	74	

今年度割当国：マレーシア、シンガポール、モロッコ、ナイジェリア、ガンビア、
 サントメ・プリンシペ、ギニア・ビザオ、カメルーン、ソマリア、
 セイシェル、赤道ギニア、パナマ、ペルー、コロンビア、セント・
 ヴィンセント、セント・クリストファー・ネーヴィス、パプア・ニ
 ユーギニア、フィジー

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：な し

早期帰国者等：2名 (セント・クリストファー・ネーヴィス) 親族の死去のため
 (セント・ヴィンセント) 精神的不安定のため

(8) 実施体制

受 入 先：神奈川国際水産研修センター (直轄)

研 修 指 導 者：野村 正恒

センター担当者：千賀 和雄

本 部 担 当 者：榎本 好孝

研 修 監 理 員：な し

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差 額
総 額(千円)	11,520	9,185	10,094	△ 909
人 月 数(千円)	96	96	102	△ 6
経費/人月(千円)	120	96	99	△ 3

(9) 担当の所見

研修科目に対する研修員の興味はその国の漁業基盤に強く影響されており、自国に適応しやすい漁業、あるいは漁業開発プロジェクト等との関連で現在、あるいは将来必要とされる漁業に関する科目に集中している。

研修プログラムに関する今後の留意点は日本で行われている沿岸漁業の実態をさらに把握し、途上国の実情をも考慮しながら研修プログラムに加えられるような科目を増やすことである。

(10) 改善・検討すべき課題

来年度からの新設コース「沿岸漁業技術コース」の特徴は、講義と実習とをリンクさせ漁業技術が体得出来るように研修の density を高めることであり、この点を考慮したカリキュラム作りが必要である。

開発途上国で行われている優秀漁業の紹介は、当コースの主要テーマの一つであるが、パヤオ利用漁業に次ぐものを発掘するためにカンントリーレポート等により新しい情報を収集していくことも必要である。

② 平成元年度 漁業協同組合コース実施概要

本部担当：榎本 好孝 センター担当：斎藤 宏

(1) コース名

漁業協同組合 FISHERY COOPERATIVES

(コースNo. 149, コードA 0181)

(2) 研修期間

1989. 7. 3 ~ 1989. 12. 18 (7. 8 ~ 7. 26 日本語集中講座)

(3) 研修目的

漁業者の組織化、組合制度の確立等が十分に行われていない開発途上国の漁業組合指導者、行政官に対し、独自の発展を遂げてきた我国の漁業協同組合を紹介しながら必要基礎知識を修得させ、協同組合の発展に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

(4) 到達目標

漁業並びに漁業協同組合に関する講義、演習、研修旅行等を通じて、漁業協同組合の重要性を広く認識させることによって、基礎理論を明らかにし当該国における漁業協同組合の組織化の充実、適正な運営管理につき、その課題を解決するための応用能力技法を習得させる。

(5) 参加資格条件

- 1) 大学卒または、同等の学力を有する者で当該分野における3年以上の実務経験を有する者。
- 2) 十分な英語能力を有する者。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

漁業概論	水産行政、漁業法
協同組合原論	協同組合簿記と会計
水産物流通・金融	漁業経済分析
漁協の活動事業	漁協と資源管理

2) 研修方法 (英語率)

講義	60.0% (71%)
演習	4.0% (100%)
研修旅行、見学等	33.0%
カンントリーレポート発表会	3.0% (100%)
スタディレポート発表会	

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
9	11	11	10	11	10
今年度までの実績					
設立年度		実施回数	受入人数	受入国数	
49年度		16	154	41	

今年度割当国：フィリピン、タイ、ケニア、ナイジェリア、セネガル、ソマリア、
ベナン、モーリタニア、コロンビア、メキシコ、ヴェネズエラ

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：なし (モーリタニア来日中止)

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受入先：神奈川県国際水産研修センター (直轄)

研修指導者：藤沢 光治

センター担当者：斎藤 宏

本部担当者：榎本 好孝

研修監理員：荘 健次

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差額
総額(千円)	7,200	5,886	5,886	0
人月数(千円)	60	60	60	0
経費/人月(千円)	120	98	98	0

(9) 担当の所見

毎年のごとく参加する研修員の職歴をみると、ほとんどが自国での行政職とすることからして、直接現場、実務等にたずさわる者は少ない。よって、各人がこの点から理解を求めなければならず、コース当初は研修員自体にとまどいが感じられたが、プログラムを通じ講師陣の指導及び現場での研修等で、各問題点の事例の究明方法さらに実践方策の手法の取組みにより良い成果が得られた。更に、各方面での討論会などへ積極的に参加するなどし、全員が勤勉かつ真面であった。

(10) 改善・検討すべき課題

- 1) 講師及び研修訪問先等への十分な説明と対応(参加者の理解)
- 2) コースに必要とされる資料の整備(視聴覚等)
- 3) 講義科目の調整(内容の重複等)、現場での研修改善(漁協等への2~3日程度の滞在研修)
- 4) 講義評価の弱い科目の教授法等の弱点の強化
- 5) 講義切れ目、問題点等についての検討会等の補強(自由な形式での)

③ 平成元年度 沿岸漁具漁法II(理論)コース実施概要

本部担当：榎本 好孝 センター担当：野津 善男

(1) コース名

沿岸漁具漁法II(理論)

COASTAL FISHING GEAR AND METHODS II (INTENSIVE)

(コースNo. 135, コードA0215)

(2) 研修期間

1990. 1. 8 ~ 1990. 3. 23 (1. 23 ~ 2. 2 日本語集中講座-夜間に実施)

(3) 研修目的

沿岸漁業に於ける代表的漁具漁法の一つである定置網及び小型トロール網の専門的学習を修得せしめることを目的としている。対象は開発途上国で漁具漁法分野の教育、研究及び漁業技術業務に従事する者とする。

(4) 到達目標

定置網及び小型トロール網に関する理論及び技術を修得させ、自国に於ける漁業、特に漁具漁法分野の改良、普及に役立たせることにある。

(5) 参加資格条件

- 1) 大学卒、又は同等の学力を有する者で現在研究、技術開発分野に従事していること。
- 2) 当該分野に於ける5年以上の職歴を有し研修終了後再びこの分野の業務に従事する予定であること。
- 3) 十分な英語能力を有する者。
- 4) 40才以下であること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

漁具製作基礎計算	モデル定置網製作
小型トロール網漁業	モデルトロール網製作
定置網漁業	
モデル網水槽実験	

2) 研修方法 (英語率)

講義	29.7% (77%)
漁具製作実習	27.0% (100%)
研修旅行、見学等	21.6%
スタディレポート準備・発表会等	21.7% (100%)

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
8	11	12	9	10	9
今年度までの実績					
設立年度	実施回数	受入人数	受入国数		
53年度	12	138	42		

今年度割当国：バングラデシュ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、モロッコ、
オマーン、タンザニア、カーボヴェルデ、チリ、ペルー、パプア・
ニューギニア

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：なし

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受入先：神奈川国際水産研修センター (直轄)

研修指導者：野村 正恒

センター担当者：野津 善男

本部担当者：榎本 好孝

研修監理員：菅原 甫夫

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差額
総額(千円)	3,600	3,483	4,167	△ 681
人月数(千円)	30	30	30	0
経費/人月(千円)	120	116	139	△ 23

(9) 担当の所見

沿岸漁具漁法コースの見直しにより、本年より当コースは内容を変更し3ヶ月コースとなったが、研修員の要望は自国で現在もっとも普及している漁法についての漁具を改良するために各自が計算、設計思考を要する内容の研修である。

このことから、今後研修を実施するに当たり、講義と演習の時間を増加し、その結果をスタディレポートとしてまとめさせる研修も考えたい。

又、研修を開始する前に各講師とコースリーダーを含めて、研修内容につき検討するとともに、各講義内容に重複がないような整理を図る必要がある。

尚、研修員のレベルを均一にすることが効果的な研修を実施する上で必要なことであり、割当国は各国の水産の発展程度も考慮して決定することが肝要と考える。

(10) 改善・検討すべき課題

- 1) 来年度の研修構成内容の検討
- 2) 研修内容に伴う研修旅行先の検討・発掘
- 3) 研修内容の変更に伴う講師陣の検討

④ 平成元年度 養殖一般コース実施概要

本部担当：榎本 好孝 センター担当：吉田 勝美

(1) コース名

養殖一般 GENERAL AQUACULTURE

(コースNo. 136, コードA0236)

(2) 研修期間

1990. 1. 8 ~ 1990. 6. 25 (1. 24 ~ 2. 3 日本語集中講座)

(3) 研修目的

開発途上国の水産養殖分野において普及、教育及び研究に携わっている者を対象として、当該分野に関する一般知識及び技術を修得させ、その上で自国の水産養殖開発に技術的見地から貢献出来る能力を開発する。

(4) 到達目標

研修を通し養殖に共通する問題を広く認識させ、今後自国の養殖開発普及に要求される飼料、水質、飼育方法の技術的問題に対し具体的な開発計画を策定しうる能力を養うことを目標とする。

(5) 参加資格条件

- 1) 大学卒もしくは同等の能力を有し、当該分野で3年以上の実務経験を有する者。
- 2) 十分な英語能力を有する者 (TOEFL 500点以上が望ましい)。
- 3) 35才以下で、心身とも健康で研修に支障をきたさない者。
- 4) カントリーレポートを提出すること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

水産・養殖一般	養殖各論 (水域・対象種別)
種苗生産と生物飼料	魚類生理学
水族栄養学	魚病学
水質管理	養殖工学

2) 研修方法 (英語率)

講義	39.0% (77%)
実習	34.0% (96%)
見学 (研修旅行等)	25.0%
カントリーレポート発表会	1.0% (100%)
スタディレポート発表会	1.0% (100%)

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
10	13	19	11	11	10
今年度までの実績					
設立年度		実施回数	受入人数	受入国数	
54年度		11	106	36	

今年度割当国：エジプト、モロッコ、カタル、チュニジア、南イエメン、ベナン、
カメルーン、マラウィ、モザンビーク、ブラジル、メキシコ、パナ
マ、マルタ

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：なし

個別：ザイール

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受入先：神奈川県国際水産研修センター (直轄)

研修指導者：加福竹一郎

センター担当者：吉田 勝美

本部担当者：榎本 好孝

研修監理員：前田美弥子

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差 額
総 額(千円)	4,680	8,997	8,997	0
	3,600	5,920	5,920	0
人 月 数(千円)	39	39	39	0
	30	30	33	0
経費/人月(千円)	120	230	230	0
	120	197	159	0

⑤ 平成元年度 小型漁船の船体・機関保守コース実施概要

本部担当：榎本 好孝 センター担当：木村 秀雄

(1) コース名

小型漁船の船体・機関

HULL AND ENGIE MAINTENANCE OF SMALL FISHING BOAT

(コースNo. 153, コードA0277)

(2) 研修期間

1990. 1. 16 ~ 1990. 6. 21 (1. 24 ~ 2. 3 日本語集中講座)

(3) 研修目的

漁業経営に不可欠な漁船、特に沿岸漁業の主力となる50トン未満の小型動力漁船の建造・保守並びに機関の維持・修理に関する技術を修得することを目的とする。開発途上国において当該分野の教育、指導及び漁船、試験・調査船等にて実務に携わっている者を対象とする。

(4) 到達目標

小型漁船の船体と機関の保守・管理に必要な基礎技術を実習を中心に修得させ、当該分野に共通する技術上の諸問題に十分に対応でき得る能力を養わせる。

(5) 参加資格条件

- 1) 高校卒、又は、内等の学力を有する者で当該分野における3年以上の実務経験を有する者、あるいは研修終了後この分野の業務につく者。
- 2) 40才以下であること。
- 3) 十分な英語力を有し、健康であること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

油圧機器	船外機	ガス、電気溶接
漁船設計製図	冷凍装置	機械工作
FRPの基礎	燃料と潤滑油	ディーゼル船外機
ディーゼル機関	船用電機一般	

2) 研修方法 (英語率)

講義	21.5% (62%)
実習	38.0% (55%)
研修旅行、見学等	26.0%
カントリーレポート発表会	2.5% (100%)
スタディレポート発表会	
補習研修	12.0% (80%)

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
7	12	13	10	9	9
今年度までの実績					
設立年度		実施回数	受入人数	受入国数	
57年度		8	61	35	

今年度割当国：モロッコ、カメルーン、コモロ、赤道ギニア、モーリシャス、ナイジェリア、サントメ・プリンシペ、ソマリア、アンチグア、ニカラグア、パプア・ニューギニア、キリバス

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：西サモア (個別枠)

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受入先：神奈川県国際水産研修センター (直轄)

研修指導者：草間喜代松

センター担当者：木村 秀雄

本部担当者：榎本 好孝

研修監理員：荘 健次

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差 額
総 額(千円)	2,880	4,499	4,999	0
	3,337	5,090	5,090	0
人 月 数(千円)	24	24	24	0
	27	27	27	0
経費/人月(千円)	120	187	187	0
	124	189	189	0

3. 個別研修コース

- (1) 平成元年度個別研修員の受入総人数は36名であった。
- (2) 研修期間は、長期のコースで2.8ヶ月、中期コース1.3ヶ月であり、他は1日～1週間程度の研修を行った。
- (3) 当年度は、個別研修コース受入体制の一層の改善と整備を図り、その実施では外部専業漁船の乗船実習等が可能となった。
- (4) 新たな試みとしては、中部支所所管の集団エビ増養殖コースの導入研修を実施した。

平成元年年度 個別研修員受入実績表

No.	研修科目	氏名(4分)	国籍	年令	研修No.	現 職	自休受入	センター受入	研修当	K研修	備 考
1	漁業技術	Mr. Felix Roman	(B) トリニダードトバゴ	47	890027	カリブ海漁業訓練センター 教官	1.6.5~1.7.30	1.6.8~1.7.29	高橋	千葉	個別一般
2	漁業協同組合	Mr. Tony Sicheo	(A) タイ	29		SEADEC 訓練センター 訓練教官	1.7.3~1.12.18	1.7.10~1.12.15	高橋	高橋	*国際機関、個別研修合流
3	水産行政	Mr. Ali Supradno	(B) インドネシア	30	890108	水産部長 企画課長	1.9.3~1.9.24	1.9.5~1.9.21	大友俊	大友俊	個別一般
4	センター施設見学	Mr. D. E. Aloysiushe	(E) スリランカ	38		水産部長 水産課 水産課長	1.10.3	1.10.3	中津	佐伯	水産部長 施設見学
5	センター施設見学	Mr. Mohamed Said	(E) コロン	43		漁業訓練センター 所長	1.10.11	1.10.11	木下	木下	個別一般
6-8	センター施設見学	Ms. Lauretta Wong 他2名	(E) マラオウ	37		行政官 施設課長	1.10.24	1.10.24	木下	石渡	外務省 研修員 研修
9	センター施設見学	Mr. Benno Charles Wilson	(E) ニュージーランド	42		漁業部長 漁業課長	1.11.1	1.11.1	木下	石渡	外務省 研修員 研修
10	センター施設見学	Mr. Michel J. Patrick	(E) モーリシャス	33		漁業部長 漁業課長	1.11.2	1.11.2	木下	石渡	外務省 研修員 研修
11	イカ釣漁業	Mr. Thevan Manikuttan	(B) インド	36	8901571	ルエクスプロエス社 記者	1.10.29~2.1.27	1.11.6~2.1.25	安田	高橋・千葉	C/P 研修専門家
12	産直技術	Mr. Mohamed S. Mowad	(E) エジプト	59		国際漁業訓練センター 船主	1.11.17~1.11.28	1.11.27	大友俊	石渡	専攻
13	人11漁業	Mr. Enrique G. Huando	(B) キューバ	36	8901270	国際漁業訓練センター 船主	1.12.10~2.1.30	1.12.18~2.1.25	高橋	高橋・千葉	個別一般
14	漁業協同組合	Mr. Vicharn Ingrissawan	(C) タイ	28	8901556	漁業部長 漁業課長	1.8.7~2.1.25	2.1.8~2.1.20	高橋	高橋	C/P プロ技師
15	水産行政	Mr. Kankombe Luoban	(B) ガイアナ	31	8905538	カリブ海漁業訓練センター 監督官	2.1.8~2.6.25	2.1.16~2.6.21	地内	高橋	*国際、産前一般合流
16	漁業技術	Mr. Makasi Pasi	(B) ガイアナ	29	8901063	カリブ海漁業訓練センター 船主	2.1.8~2.6.25	2.1.16~2.6.21	地内	高橋	*国際、小規模合流
17	センター施設見学	Mr. Anso Pala	(E) フィリピン	37		漁業部長 漁業課長	2.2.16~2.3.13	2.2.29~2.3.9	高橋	高橋	外務省 研修員 研修
18	漁業行政	Mr. Robertus D. Malyanto	(A) インドネシア	39	8904551	漁業訓練センター 船主	2.2.29~2.3.10	2.2.26~2.3.9	高橋	高橋	C/P 外務省 研修
19	漁業行政	Mr. Ampasie Kofie	(A) トーゴ	42	8905522	国際漁業訓練センター 船主	2.2.24~2.3.8	2.2.3.6	高橋	高橋	個別一般
20	漁業訓練視察	Ms. Cheta Eln de Sumbawal	(B) フィリピン	44	8905266	国際漁業訓練センター 船主	2.2.24~2.3.8	2.2.3.6	高橋	高橋	専攻
21	漁業訓練視察	Mr. Humberto Calero Hurtado	(B) コロンビア	40	8905267	SENA カリブ地方 局長	2.2.24~2.3.8	2.2.3.6	高橋	高橋	専攻
22-27	センター施設見学	Mr. Uale S. Bea 他5名	(B) ガンビア	39		西アフリカ 漁業訓練センター 船主	2.2.27~2.7.21	2.3.12~2.3.16	高橋	高橋	外務省 研修員 研修
28-35	センター施設見学	Mr. Baghadi Ahmed 他7名	(B) エジプト	35		国際漁業訓練センター 研究施設	2.3.22~2.6.30	2.3.22~2.6.30	高橋	高橋	国際機関 研修コース
36	漁業技術	Mr. Shichiro Tanji	(B) フランス	51	8906131	サンパワロ 水産研究所 水産部長			高橋	高橋	個別一般

H/P 本部 K/P 漁業訓練センター *印は個別コースに合流した研修員

4. オリエンテーション

神奈川国際水産研修センターの集団コース参加のため来日した研修員はまず東京国際研修センターに入館し、全日のブリーフィングと3日間のオリエンテーションを受ける。その後、神奈川国際水産研修センターに移動し、そこであらためて約1週間のオリエンテーションを受ける。

当センターでのオリエンテーションは年2回実施された。そのプログラムは次のとおり。

第1日 … 移動、チェックイン、研修員・職員の紹介、施設見学、登録、町内案内

第2日 … 館内生活に関するレギュレーション説明、研修プログラム説明、個別インタビュー、外人登録書類準備（含個別写真撮影）

第3日 … 個別インタビュー（続き）、銀行口座開設手続、支給品供与、用品販売等

第4日 … 横須賀市内案内（バス、電車）、銀行口座引出・預金

第5日 … 近隣施設見学（油壺マリンパーク等）

5. 日本語研修

神奈川国際水産研修センターでは、日本語研修を全研修員に対し義務づけて実施している。平成元年度後期より実施要領を導入した。

カリキュラムの前半において全日集中講座を約10日間、更にその後2ヶ月から3ヶ月にわたり月、水、金1日2時間の夜間講座を実施している。

到達目標は、技術研修コースの期間等により異なるが、自己紹介、公共交通手段による移動等に支障のない会話を習得させ、日常生活の不便を解消し一層日本の文化、日本人の考え方を理解し、友好を深めることができ、しいては滞日中の技術研修効果を高めることを目標としている。

又、日本語発表会をはじめとして、日本の歌の練習、市内外の教育団体等との交歓会、日本の家庭を訪問するなど多くの行事を盛り込み、日本での生活をよりよいものにするため本講座に力を入れている。

実施要領

(1) 集中講座：

8日間、1日5時間（計40時間）

(2) 夜間講座：

26日間、1日2時間（計52時間）月、水、金の7時から9時まで

(3) 日本語発表会：

全研修員参加により講座最終日に実施している。日本語発表テーマは各自選択（自由課題）とし、3分間程度にまとめ発表している。

(4) クラス：

各コースごとに編成している。

(5) 日本語参加証書：

集中講座に全て出席し、夜間講座においても大方出席した研修員に対し参加証書を授与している。

(6) 使用テキスト等：

・JICA技術研修員のための日本語（ローマ字版）

- ・技術研修のための日本語（初級用）
- ・使用可能な補助教材（ひらがな練習帳、日本語カセットテープ、辞書（英-和））

(7) 資機材：

当センター所有のOHPプロジェクター、VTR、テープレコーダー等の機器。

(8) 研修実施体制：

当センターが委嘱する日本語講師5名により実施している。

日本語講師一覧表

氏名	性別	最終学歴	日本語教育講習経験	
			センター	通算
高橋 泉	女	津田塾専門学校外国語科	6年	6年
奥山 美和子	女	秋田県立角館高等学校	6年	6年
山口 直子	女	津田塾大学英文科	6年	9年
山本 そのこ	女	慶応大学大学院英米文学	6年	7年
山田 明子	女	清泉女子大学スペイン文学科	1年半	2年

日本語研修実績表

全日集中講座			夜間講座			
コース名	期	人数	実施日数(時間数)	期	実施日数(時間数)	合計時間数
継 続						
沿岸漁具漁法Ⅰ(理論)コース	平成元年 1月24日～2月3日	11名	9日(47.5H)	平成元年 2月6日～4月26日	31日(62.0H)	109.5H
養 殖 一 般 コ ー ス	平成元年 1月24日～2月3日	13名	9日(47.5H)	平成元年 2月6日～4月26日	31日(62.0H)	109.5H
小型漁船の船体・機関保守コース	平成元年 1月24日～2月3日	8名	9日(47.5H)	平成元年 2月6日～4月26日	31日(62.0H)	109.5H
新 規						
沿岸漁具漁法Ⅰ(実技)コース	平成元年 7月18日～7月26日	16名	8日(37.5H)	平成元年 7月28日～11月1日	33日(66.0H)	103.5H
漁業協同組合コース	平成元年 7月18日～7月26日	10名	8日(37.5H)	平成元年 7月28日～11月1日	33日(66.0H)	103.5H
養 殖 一 般 コ ー ス	平成2年 1月24日～2月3日	11名	10日(45.0H)	平成2年 2月5日～3月31日	18日(36.0H)	81.0H
小型漁船の船体・機関保守コース	平成2年 1月24日～2月3日	9名	10日(45.0H)	平成2年 2月5日～3月31日	17日(34.0H)	79.0H
沿岸漁具漁法Ⅰ(理論)コース	平成元年 1月24日～2月2日	10名	9日(20.5H)	平成2年 2月5日～3月9日	11日(22.0H)	42.5H

6. 研修員の福利・厚生

(1) 厚生活動、国際交流等

No.	実施時期	行事内容	参加コース	参加人数	主催者
1	4月16日(日)	親善サッカー試合	有志	28名	JICAサッカークラブ
2	4月20日(木)	親善友好パーティー	漁四、養一、小型漁船	70名	三浦ロータリークラブ
3	4月22日(土)	鎌倉史跡見学	" " "	43名	神奈川県善意通訳者の会
4	4月28日(金)	バレーボール大会	" " "	50名	神奈川県センター
5	6月5日(日)	富士五湖巡り	" " "	43名	神奈川県センター
6	7月17日(日)	ディスカバーパーティー	漁四、組合	50名	神奈川県センター
7	7月23日(日)	横須賀海まつり	" "	30名	横須賀市教育委員会
8	8月5日(土、日)	盆踊り大会	" "	50名	長井町漁業協同組合
9	8月17日(木)	映画鑑賞会	" "	30名	神奈川県善意通訳者の会
10	8月21日(日)	バレーボール大会	" "	46名	神奈川県センター
11	9月7日(木)	筑・農センター研修員交流会	" "	66名	神奈川県センター
12	9月14日(木)	東京ディズニーランド見学	" "	36名	神奈川県センター
13	10月9日(日)	富士五湖巡り	" "	28名	神奈川県センター
14	10月12日(木)	親善友好パーティー	" "	60名	三浦ロータリークラブ
15	10月14日(土)	鎌倉史跡見学	" "	36名	神奈川県善意通訳者の会
16	11月11日(土)	JICA杯サッカー大会	有志	25名	JICAサッカークラブ
17	11月12日(日)	ホームヴィジット	漁四	13名	湘南国際交流会
18	11月20日(日)	ディスカバーパーティー	漁四、組合	45名	神奈川県センター
19	11月22日(木)	親善友好パーティー	" "	70名	横須賀みかさライオンズクラブ
20	11月24日(金)	国際親善パーティー	" "	150名	神奈川県センター
21	11月26日(日)	国際親善バレーボール大会	有志	27名	横須賀青年団体連絡協議会
22	1月22日(日)	ディスカバーパーティー	漁四、養一	53名	神奈川県センター
23	3月10日(土)	親善招待茶会	" "	23名	みどりの園愛育園
24	3月14日(水)	北海道広尾漁協との交流会	漁四、養一、小型漁船	83名	神奈川県センター
25	3月16日(金)	東京ディズニーランド見学	" " "	44名	神奈川県センター
26	3月17日(土)	鎌倉史跡見学	" " "	40名	神奈川県善意通訳者の会
27	3月31日(土)	花見遊園会	養一、小型漁船	21名	横浜まどかグループ

漁 漁四：沿岸漁具漁法II(理論)コース、養一：養殖一般コース、小型漁船：小型漁船の船体・機関保守コース、
 組合：漁業協同組合コース、漁四：沿岸漁具漁法I(実技)コース

前表のほか、月平均2～3回程度のサッカー他流試合、ビデオテープ（洋画）の貸出し、その他娯楽用品（ダーツ、オセロ等）、スポーツ用品（卓球、サッカー等）の整備を行った。

研修旅行中の国際交流活動としては、平成元年度は以下のとおり実施した。

① 沿岸漁具漁法I(実技)コース

平成元年10月 北海道木古内町 木古内高校

平成元年10月 北海道南茅部町 南茅部高校

② 沿岸漁具漁法II(理論)コース

平成元年2月 熊本県熊本市 熊本YMCA

③ 漁業協同組合コース

平成元年9月 北海道別海町 野付中学校

(職業教育の一環としての「水産教育」授業中に討論会をもち、その後約1時間のバレーボール交流試合を行った。昭和63年度に初めて同校を訪問、平成元年度よりこのような交流プログラムを開始した。)

(2) 健康管理

週1回の嘱託医による健康相談を通じて、研修員の健康管理に努めたが、肝炎による入院に至ったことは遺憾であった。

(嘱託医による診療科別相談件数)

(入院・手術等)

1. 皮膚、泌尿器科系	32	
2. 眼科系	6	
3. 耳鼻咽喉科系	10	
4. 外科、整形外科系	17	
5. 内科(呼吸、消化器)系	33	1 (急性肝炎)
6. 神経(不眠等)科系	16	
7. 歯科系	5	
8. 肛門科系	5	
9. 婦人科系	1	
10. その他	4	
合計 129 (件)		1 (件)

7. 関連業務

(1) 帰国研修員のフォローアップ

フォローアップにはフォローアップチームの派遣（含公開技術セミナー）、単独機材供与、文献供与などがあるが、平成元年度は小型漁船の船体・機関保守コース、沿岸漁具漁法（実技・理論）コースを対象にフォローアップチーム派遣1件を次のとおり実施した。

1) 派遣目的

- ①帰国研修員の活動状況を把握する。
- ②当該国の本分野における、一般事情及び技術水準を調査し、研修に対するニーズを把握する。
- ③帰国研修員の所属機関、関係機関の概要調査を行う。
- ④帰国研修員の現場、JICA技術協力現場を視察することによって現場における技術水準を把握する。

2) 派遣国及び期間

ガンビア共和国及びコモロ回教連邦共和国

20日間（平成元年9月2日～9月21日）

3) 団員構成

大野 隆次	団 長	国際協力事業団 神奈川国際水産研修センター センター付・参事
木村 秀雄	指 導 員	国際協力事業団 神奈川国際水産研修センター 研修室（小型漁船の船体・機関保守コース）
野津 善男	業務調整	国際協力事業団 神奈川国際水産研修センター 研修室（沿岸漁具漁法II-理論コース）

4) 調査結果の要約

①技術協力窓口：

両国とも要請窓口である外務省の調整機能が不十分と思われる。

②研修員選考基準：

両国ともJICA派遣専門家の人選にかかわる役割が強く、カウンターパート等の

研修員受入れについて派遣前オリエンテーションを強化する必要がある。

③研修員所属先の日本での研修の意義と評価：

両国と日本との技術レベル格差が大きく、現地のレベルで導入しやすい研修を望む声と日本から導入されている設備、機械（特に船舶機関）の研修を望む声とがある。

④研修のニーズの把握：

両国とも水産基礎教育は海外に依存し、技術者の絶対数が少ない。今後ともレベルアップのための研修ニーズは高い。

⑤技術指導の概要：

両国ともJICA派遣専門家の協力を得て、帰国研修員の現場でカウンセリング形式で実施した。Timing Tester等の計測器取扱い、今後導入予定のディーゼル船外機の保守、管理に重点を置いた。

5) 当該研修コース（カリキュラム等）改善の具体的提言

小型漁船の船体・機関保守コースの研修内容の改善・追加

①実習時間の延長：船舶機関の整備

FRP船の整備

②研修科目の追加：冷凍・冷蔵技術の研修

小型漁船の造船技術の研修

沿岸漁具漁法コースの研修内容の改善・追加

①講義時間の延長：網漁業（刺網漁業）

②研修科目の追加：航海機器の研修

6) このほかの要望

①水産物加工（例えば塩干物、煎製）についての研修

②帰国研修員への再研修の機会

③通信教育研修（最新モデルの紹介、従来モデルとの相違等に関する情報）

(2) 第三国研修支援

南太平洋諸国は島嶼国家であることから海洋開発、特に水産資源の開発に大きな期待をかけている。

大規模漁業では輸出産業として振興するとともに雇用機会の拡大と労働者の所得の安定を図るようにしており、また沿岸漁業では自給自足経済下にある漁業を貨幣経済の中に転換させ、産業として育成し、自国周辺の沿岸水産資源を有効に利用することによって、国民に水産蛋白食料の安定を図り、併せて輸入水産物の削減を行う努力がなされている。

そこで本研修コースはパプア・ニューギニアをその実施国とし、近隣諸国から水産普及職員を対象に漁業に役立つ実践技術と知識、および関連知識に絞った共通のニーズのあるカリキュラムを設定して、開始当初（昭和59年）より神奈川県国際水産研修センターが中心となり、専門家の派遣やカウンターパートの受入れなど行い支援している。

なお、平成元年度の実施概要は次のとおりである。

1) 実施研修科目：

『沿岸漁業開発』

(Regional Training Course in Coastal Fisheries Development)

2) 実施国：パプア・ニューギニア

3) 実施回数：6回目

4) 実施期間：平成元年11月19日～12月14日

5) 主な研修項目：

イ. 漁具漁法一般

ロ. 漁具製作

ハ. 海上実習（立縄、マグロ延縄、リール漁業等）

ニ. 船外機の保守

6) 参加資格要件

①漁法一般に関して2年以上の実務経験を有する者。

②漁業分野で普及業務に従事している者。

③ 40才未満の者。

④ 英語が堪能で健康である者。

7) 割当国：(近隣国 12ヶ国)

キリバス、トンガ、西サモア、ソロモン諸島、ミクロネシア、パラオ、
フィジー、マーシャル、ヴァヌアツ、トゥヴァル、ナウル、クック諸島

8) 専門家派遣： 2名

漁具漁法 1名、 漁船機関 1名

9) 実施成果：

① 小型マグロ延縄漁業、立て縄漁業(樽流し漁法)など南太平洋のどの国にも適する漁具、漁法が具体的な形で紹介され、沿岸零細漁業の指針となった。

② 南太平洋での水産教育に関する PNG の Status が上がった。

③ 船外機取扱い実習を取り入れた事により当該研修に中をもたせ、かつ研修内容に興味をもたせた。

④ 神奈川国際水産研修センターの帰国研修員が船外機をはじめ多くの科目を受け持った事により、神奈川国際水産研修センターでの研修が有効に活用できた。

⑤ これまで積極的に接する事のなかった PNG 水産関連機関(水産省、州政府水産局、PNG 大学水産学科、国立水産専門学校~NFC等)が第三国研修という一つの目的のため中広い連帯感が持たれるようになった。

第三国研修「沿岸漁業開発」研修員受入実績表

割当国	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	計
1. Papua New Guinea	7	6	8	8	5	6	40
(East New Britain)	(2)		(2)	(1)	(1)		(6)
(West New Britain)	(1)					(1)	(2)
(Morobe)	(1)		(2)	(2)			(5)
(Western)		(2)		(1)		(1)	(4)
(Gulf)		(2)	(2)				(4)
(Central)			(2)	(1)	(2)	(3)	(8)
(New Ireland)	(1)	(2)					(3)
(Oro)			(1)				(1)
(North Solomon)				(1)			(1)
(Madang)				(1)	(1)		(2)
(East Sepik)				(1)			(1)
(West Sepik)			(1)				(1)
(Manus)					(1)		(1)
(Milne Bay)						(1)	(1)
2. Kiribati	2	1	1	1		1	6
3. Tonga	1	1	1	1			4
4. Western Samoa			1	1			2
5. Solomon Is.	2	1	1	1	1	1	7
6. Fiji	1					2	3
7. Micronesia		2	1	2	4		9
8. Vanuatu	1				1		2
9. Palau Is.		3		1			4
10. Nauru						1	1
11. Tuvalu						1	1
12. Marshall Is.					1	2	3
13. Cook Is.				1	1	1	3
割当国外							
14. American Samoa			1	2			3
計	14	14	14	18	13	15	88
	6ヶ国	6ヶ国	7ヶ国	9ヶ国	6ヶ国	8ヶ国	

(3) 青年海外協力隊員派遣前技術補完研修

当センターでは、青年海外協力隊員の派遣前国内研修をも実施している。平成元年度は7名を受入れた。概要は次のとおり。

No.	氏名	応募職種	研修期間	研修内容	派遣予定国
1	みやもと かつのぶ 宮本 勝延	漁具漁法	4 / 12 ~ 8 / 23	①資源調査に関する 漁具漁法一般 ②沿岸漁業実習	コスタリカ
2	うちだ とおる 内田 徹	養殖	4 / 12 ~ 8 / 23	①資源調査に関する 漁具漁法一般 ②種苗生産基礎実習	ザンビア
3	えちご まなぶ 越後 学	養殖	4 / 12 ~ 8 / 23	①資源調査に関する 漁具漁法一般 ②種苗生産基礎実習	マレーシア
4	さとう かずとし 佐藤 一敏	船舶機関	5 / 10 ~ 8 / 23	①漁船機関の保守・ 管理 ②沿岸漁業実習	トンガ
5	にしむら ひろあき 西村 博明	船舶機関	7 / 5 ~ 8 / 23	①漁船機関の保守・ 管理 ②沿岸漁業実習	トンガ
6	うめの えいじ 梅野 栄治	漁具漁法	9 / 25 ~ 12 / 20	①資源調査に関する 漁具漁法一般 ②沿岸漁業実習	パプア・ ニューギニア
7	さかた しげと 坂田 重登	漁具漁法	9 / 25 ~ 12 / 20	①資源調査に関する 漁具漁法一般 ②沿岸漁業実習	ホンデュラス

(4) 水産分野研修連絡会議

当事業団では、平成元年度現在水産分野については11の集団コースを3センター、2支部において独立的に実施している。しかしながら一方では、ODA予算の伸びと開発途上国のニーズの多様化に伴ない研修コースが増え、受入れに際し応募国側が混乱しないよう配慮しながらコースの設定及び効果的な実施体制を整備していくことが必要である。

この点を踏まえて、各センター、支部の担当者が各コースの現状と問題点を報告しあい、連絡調整を図る目的で、当センターが世話役となって下記の日程で連絡会議を開催した。

1. 日 時：

平成2年2月22日(木) 13:30～17:00

2月23日(金) 10:00～12:00

2. 場 所：

神奈川国際水産研修センター

3. 議 題：

- 1) 研修員受入れ事業の動向と課題
- 2) 神奈川国際水産研修センターをとりまく現状
- 3) 各コースの概要と当面する問題点
- 4) 今後の連絡会議のあり方

4. 対象研修コース：

所 管

- | | |
|-----------------|---------|
| 1) 沿岸漁具漁法II(理論) | 神奈川センター |
| 2) 沿岸漁業技術 | 〃 |
| 3) 漁業協同組合 | 〃 |
| 4) 養殖一般 | 〃 |
| 5) 小型漁船の船体・機関保守 | 〃 |
| 6) エビ増養殖技術 | 中 国 支 部 |
| 7) 海洋牧場システム | 四 国 支 部 |
| 8) 水産食品加工 | 兵庫センター |

- | | |
|---------------------|--------|
| 9) 海面養殖 | 北州センター |
| 10) 魚類生理・防疫 | 〃 |
| 11) 水産加工流通経営 | 〃 |
| 12) その他のコース（特設、個別等） | |

5. 出席関係機関：

本 部・国際研修センター業務室
 研 修 第 一 課
 支 部・中 国 支 部
 四 国 支 部
 センター・兵庫インターナショナルセンター
 九州国際センター
 神奈川国際水産研修センター

(5) 便宜供与・広報

平成元年度は、外務省招聘計画（個別研修員受入れ実績表参照）によるほか、当センターに次の来訪、視察があった。

①韓国農漁民後継者育成研修計画による農漁村青年一行

平成元年6月3日

館内視察、センター概要説明、実習船・長井魚市場視察

②筑波国際農業研修センターかんがい排水コースおよび水管理コース研修員25名

平成元年9月7日

館内・実習船視察、センター概要説明、当センター研修員との交歓パーティー

③静岡県立漁業高等学園々長他1名

平成元年10月18日

館内・実習船視察、センター概要説明

④釧路市経済部未来開発室主幹

平成元年11月10日

館内・実習船視察、センター概要説明

⑤水産分野研修連絡会議、国際研修センター業務室長他 14名

平成2年2月22日

水産分野 11 集団コースの情報交換と今後の連絡調整のあり方等

⑥北海道広尾漁業協同組合

平成2年3月14日

館内・実習船視察、センター概要説明、当センター研修員との交流パーティー

平成元年度は、写真入センターパンフレット（和英文両用）を改訂し 3,000 部作成した。

(6) 視聴覚教材開発

当センターは、平成元年度に新たに設けられた視聴覚教材整備費を用いて研修用ビデオ教材を作成した。

この教材は、我国の沿岸漁業の紹介として相模湾と東京湾で働く漁業者や研究者等を通じて漁業生産、流通、資源管理システム、研究、普及、後継者問題等にスポットを当てた。

平成元年度では、とりわけ沿岸漁業の全体像が浮び上がってくる内容で企画し、この教材が広く活用でき、更に、水産分野研修用教材として汎用性をもたせることを目的とし『題名：沿岸漁業を支える人たち』について下記2巻（英語版）を作成した。

第1巻 水産物の流通システムと漁業協同組合の役割 上映時間 25分 VHS

第2巻 技術普及、資源管理そして漁業後継者の育成 上映時間 25分 VHS

（製作担当は、株式会社バンブー企画。所要経費約 750 万円。）

8. 施設の管理・運営等

(1) 宿泊管理と実績

神奈川国際水産研修センターは、研修員が滞在できる個室は32。

平成元年度は8,922人日で、入館率は74.1%であった(昭和63年度は68.1%)。宿泊利用実績は資料-1のとおり。

平成元年度1月16日付で、横須賀市汐入地区にあるホテルハーバー横須賀と、研修員等の宿泊に関する覚書きを取り交し、個別研修員を中心に71人日宿泊せしめた。

(2) 施設の管理・運営

東京ビジネスサービス株式会社と建物等管理業務請負契約を締結し、施設の管理・運営にあっている。業務分野はフロント、電気・機械、守衛、清掃、食堂経営である。

(3) 施設の整備

管理費のうち施設費は9,768千円の支出であったが、一件10万円以上の工事は次のとおり。

1) 洗面台修理	1,949千円
2) 養殖棟ポンプ修理	189千円
3) 業務住宅修理	163千円
4) 3、4階シャワー室工事	1,493千円
5) 排風機取替工事	179千円
6) 冷暖房機器新設工事	305千円
7) 研修員用居室修理	139千円
8) 蛍光灯清掃工事	204千円
9) 面格子取替工事	113千円
10) 主機関整備(研修丸)	1,022千円
11) 石棉繊維飛散防止工事(空調機械室)	999千円
12) 機関保守整備(ふじ)	278千円
13) 所長室改修工事	519千円
14) 浄化槽保守整備	543千円
15) その他(10万円以下)	1,673千円

平成元年度 宿泊利用実績

神奈川国際水産研修センター

コース名称	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	単価	宿泊料収入
沿岸漁具漁法Ⅱ(理論)コース	9	270	279	135										684		
養殖一般コース	12	348	358	180										886		
小型漁船の船体・機関保守コース	8	240	248	120										608		
沿岸漁具漁法Ⅰ(実技)コース	16				346	496	480	496	480	204				2,502		
漁業協同組合コース	9				198	279	270	279	270	126				1,422		
沿岸漁具漁法Ⅱ(理論)コース	10										160	280	190	630		
養殖一般コース	10										150	280	310	740		
小型漁船の船体・機関保守コース	8										121	224	248	593		
集団合計		888	885	435	544	775	750	775	750	330	431	784	748	8,065	3,500	28,227,500
個別研修員		(3) 90	(3) 93	(4) 68	(1) 49	(1) 31	(2) 45	(1) 31	(2) 55	(3) 51	(4) 72	(4) 68	(4) 78	731	3,500	2,558,500
一般その他		(3) 4	(4) 5	(4) 1	(1) 2	(8) 14	(7) 19	(4) 4	(4) 7	(4) 10	(6) 32	(4) 14	14	126	4,326	545,076
合計		952	983	504	595	820	814	810	812	391	535	866	840	8,922		31,331,076
月別宿泊可能数	33	990	1,023	990	1,023	1,023	990	1,023	990	1,023	1,023	924	1,023	12,045		
入館率		96.2%	96.1%	50.9%	58.2%	80.1%	82.2%	79.2%	82.0%	38.2%	52.3%	93.7%	81.8%	74.1%		
月別宿泊料収入		3,335	3,445	1,765	2,084	2,880	2,862	2,838	2,854	1,377	1,899	3,042	2,939	31,331		

コース別年度別研修員受入実績

REGION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE
ASIA	14	12	15	8	15	14	12	11	12	9	9	6	8	16	10	15	12	22	25	16	25	24	23	13	10	13	11	10	9	399	184	33	63	78	33	8
OCEANIA												1	1	2	2	4	1	4	4	4	4	4	9	4	8	3	7	6	7	71	11	31	9	4	1	15
AFRICA	2	1	7	1	2	4	4	5	3	6	9	4	5	8	2	5	6	5	6	6	7	10	12	13	17	18	19	20	207	67	65	18	23	11	23	
MIDDLE EAST, EUROPE	2	2	2	1	3	3	4	3	2	1	2	4	2	3	4	5	9	1	2	4	4	8	6	5	8	6	5	8	97	35	15	13	10	20	4	
LATIN AMERICA						4	3	4	3	10	9	5	5	6	3	9	10	18	11	13	15	16	15	20	14	15	13	14	11	249	62	49	35	39	53	11
TOTAL	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	30	27	30	34	51	50	48	51	53	61	53	54	54	57	56	1023	359	193	138	154	118	61	

COURSE	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	TOTAL	
Ex	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	21	17	20	20	20													359
GM-1																		18	18	18	18	19	18	17	17	18	16	16	193		
GM-2																		15	13	14	15	8	13	11	10	8	10	11	10	138	
Co											9	10	10	9	9	8	10	10	12	9	10	11	9	10	11	9	9	10	154		
Aq																		5	7	10	8	8	10	11	8	9	10	8	13	118	
HE																														61	
TOTAL	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	30	27	30	34	51	50	48	51	53	61	53	54	54	57	56	1023		

Ex : Coastal Fisheries Extension Course
 GM-1 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-I (Practice)
 GM-2 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-II (Theory)
 Co : Fishery Cooperatives Course
 Aq : General Aquaculture Course
 HE : Hull & Engine Maintenance of Small Fishing Boat Course

国別年度別コース別研修員受入実績

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE								
Bangladesh															1	1	1	3	2	3	2							1	1	1	17	1			7	6	1	2						
Myanmar								1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	1	1	1					22	15	1	3	3												
Cambodia														1														1	1															
China						1														2								4	1	1	1	1												
India					1	1	2	1				1	1	2						1	1	1				1		13	8	2		3												
Indonesia	6	3	4	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	5	5	2			2	2		1	1	64	43	2	3	11	5											
Korea																				1	2	2					5				3	2												
Malaysia	2		2	2	3	2	2	2	1		2	2	2	2	2	2	2	2	5	3	4	1	2	1	3	2	2	52	22	5	11	8	5	1										
Maldives						2															1	1	1				6	2			3													
Pakistan	7																	1									8	8																
Philippines					2	4	2	2	1	2	1	1	2	1	2	1	5	5	2	3	4	6	4	1	2	1	3	2	59	19	6	12	14	7	1									
Singapore						1	1	1	1	1	1				2	2										1	1	15	10	3	2													
Sri Lanka	2	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	2	3	3	3	4	4	3	2	2	1	1	52	23	4	8	8	7	2										
Thailand	1	6	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	5	3	7	5	5	2	2	2	2	79	29	9	10	23	7	1										
Viet-nam	1														1												2	2																
TOTAL	14	12	15	8	15	14	12	11	12	9	9	6	6	16	10	15	12	22	25	16	25	24	23	13	10	13	11	10	9	399	184	33	63	78	33	8								

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE													
Fiji																1				1	1	2	4	3	2	1		1	1	1	18	1	10	4	1	1	1												
Kiribati																							3					1	1	5		1			1														
Micronesia																									1	2		3		2																			
P. N. G.															2	1	1	1	1	1	1	3	1	4	2	2	4	4	25	2	13	5																	
Solomon Is.																				1	1					1		3		2			1																
Tonga														1	1	1	1	2	1						1			9	5	2			1																
Tuvalu																												1																					
Vanuatu																									1			2		1																			
Western Samoa											1				1	1											1	1	5	3																			
TOTAL											1	1	2	4	1	4	4	4	4	4	4	9	4	8	3	7	6	7	71	11	31	9	4	1	15														

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	TOTAL	Ex	CM-1	CM-2	Co	A9	HE				
	Benin											1																1	1	2	5	1	1			1	2			
Cameroon																										1	1	1	2	4						3	1			
Cape Verde																										1			1											
Comoros																									1	2	1	2	1	1	1							6		
Equa. Guinea																																								
Gabon																																								
Gambia																									1	1	3	2	1	2	1	13		8	1			4		
Ghana																									1	1	1	1												
Guinea																										1	2												1	
Guinea Bissau																																								
Ivory Coast																																								
Kenya																																								
Madagascar																																								
Malawi																																								
Mauritania																																								
Mauritius																																								
Mozambique																																								
Nigeria	2	1	4	1	2	2	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	28	19	1		6		2				
Sao Tome & Principe																																								
Senegal																																								
Seychelles																																								
Sierra Leone																																								
Somalia																																								
Sudan	1																																							
Tanzania	2																																							
Zaire																																								
Zambia																																								
TOTAL	2	1	7	1	2	4	1	5	7	5	9	4	5	8	2	5	6	6	6	7	10	7	12	13	17	18	19	20	207	67	65	18	23	11			23			

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE			
Argentina																						1	1							5		1	3		1				
Antigua																														1									
Barbados											1																			1									
Belize																											1			1									
Bolivia																														2									
Brazil						2	1	1	1	1	2	2	1	2	3	3	3	2	1	2	1	2	1	2	3	3	2	1	2	27	5		5	8	8	1			
Chile						1						1											2							9	2	2	2	1					
Colombia																						3	2	3					20	6	5	1	6	2					
Costa Rica																													3	1									
Cuba																														4									
Ecuador						2	2	1	1	1	2																		15	12		2	1						
Grenada																													2										
Guatemala																													2										
Guyana																													1										
Haiti																													6	2	3								
Honduras																													3						2				
Mexico						1	2	1	1	1	2																		5						2	2			
Nicaragua																													68	16	11	4	8	29					
Panama																													4										
Peru																													12	5	2	1	1	3					
St. Christopher																													42	8	14	10	6	3	1				
St. Lucia																													2										
St. Vincent																													1										
Suriname																													2										
Trinidad Tobago																													2	2									
Venezuela																													4	1									
Uruguay																													3										
TOTAL	4	3	4	3	10	9	5	5	6	3	9	10	18	11	13	15	16	15	20	14	15	13	14	14	249	62	49	35	39	53	11								

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Ag	HE													
Algeria																																																	
Egypt																				2							1																						
Iraq								1																																									
Iran			2	2	1	1	1	2	2	1	1							1	2	2			4	1	1	1																	2						
Kuwait																									1																			1					
Lebanon										1	1	1																																					
Libya																				3																									1				
MOROCCO																							2	2																					1	4			
Oman																				1																										1			
Qatar																																															2		
Syria																																															1		
Tunisia																																																1	
Turkey																																																1	
N. Yemen																																																	1
S. Yemen																																																2	2
Portugal																																																1	
Yugoslavin																																																2	
TOTAL	2	2				2	1	3	3	4	3	2	1	1	2	4	2	3	4	5	9	1	2	4	4	8	6	5	8	6	97	35	15	13	10	20									4				

Ex : Coastal Fisheries Extension Course
GM-1 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-I (Practices)
GM-2 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-II (Theory)
Co : Fishery Cooperatives Course
Ag : General Aquaculture Course
HE : Hull & Engine Maintenance of Small Fishing Boat Course

JICA